

# 群馬大学基金

2021年度 事業報告書



国立大学法人 **群馬大学**  
National University Corporation Gunma University

# 群馬大学基金へのご支援に対するお礼

皆様には、日頃より群馬大学へ温かいご支援を賜り、厚くお礼申し上げます。2021年度も群馬大学基金を活用し、様々な事業を実施することができました。誠にありがとうございます。

さて、2021年度は、新型コロナウイルス感染症の流行が続く中、本学でも保護者からの仕送りや学生のアルバイトの減少などにより、経済的に困窮する学生も多く、そういった学生を救済するため、皆様に基金へのご支援を引き続きお願いさせていただきました。

多くの皆様から本趣旨にご賛同いただき、学生への励ましのメッセージと共に、非常に多くのご寄附を賜りました。お陰様で、基金を活用した新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援として、緊急学生支援奨学金の給付や学生の食に対する支援を行うことができました。また、経済的に困窮する学生に対する奨学金給付や留学経費の補助といった事業も行うことができました。皆様からのご支援に重ねてお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は現在もなお予断を許さない状況にありますが、今後も学生が修学を諦めることのないよう、学生生活等の支援を継続してまいります。

今後も国立大学を取り巻く環境の変化に対応しつつ、学生に対する支援、教育研究の質の向上、社会貢献活動の充実等、群馬大学の発展に努力して参る所存です。また、2022年2月24日に始まったロシアによる侵攻により、ウクライナの学生や研究者は、教育や研究の継続が困難になっています。群馬大学はこれらの人々を一時的に受け入れることといたしました。群馬大学基金は、この活動のためにも有効活用させていただきたいと思っております。引き続き群馬大学基金にご支援賜りますようお願い申し上げます。

国立大学法人群馬大学長

石崎 泰樹



# 群馬大学基金の事業概要

皆様からご支援いただいた寄附金は、以下の事業で活用させて頂いております。

## 事業

### 1. 学生の修学支援に資する事業

経済的理由により修学が困難な学生に対する奨学金の給付、海外留学費用の補助等

### 2. 大学運営全般に係る事業

教育研究の支援、国際交流の推進、教育研究環境の整備、附属病院・附属学校の整備

### 3. 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

重粒子線治療の研究・発展、及び普及活動

### 4. 学生や若手研究者の研究等支援に資する事業

公募型プロジェクトの費用補助、論文刊行費用・学会参加旅費の支援等

#### ▶ 現物資産（不動産、有価証券等）によるご寄附の受け入れ

本学では、「土地、建物等の不動産」や「株式等の有価証券」などの現物資産寄附を受け入れ、当該資産を有効に活用するため、「群馬大学現物資産活用基金」を2020年度に創設しました。群馬大学基金は、主に現金による寄附により運営しておりますが、それに加え、このたびの現物資産によるご寄附を有効に活用することで、教育研究環境の一層の充実を図ってまいります。

なお、群馬大学現物資産活用基金への現物資産によるご寄附におきましては、みなし譲渡所得税は非課税扱いとなります。

現物資産によるご寄附をご検討の方は、お気軽に基金事務室までお問い合わせください。

※みなし譲渡所得税とは：個人が株式・土地等の現物資産を法人に寄附した場合、寄附時の時価で譲渡があったとみなされ、資産の取得時から寄附時までの値上がり益に対してかかる所得税のことです。

#### 【みなし譲渡所得税の非課税承認(承認特例)の流れ図】



# 群馬大学基金の2021年度の活動を事業ごとにご報告します。

## 新型コロナウイルス感染症に伴う学生支援事業

今般の新型コロナウイルス感染症により、本学でも学生の健康と学修機会を確保するため、オンライン中心による授業を行うなど、様々な措置を講じました。現在も、感染者数は下げ止まりの状況にありますが、新型コロナと共存しながら教育・研究の充実を図るべく、22年度からは対面を中心とした授業を行っております。

ここでは、皆様からのご支援による群馬大学基金を活用して実施した、学生支援事業をご報告いたします。

### 緊急学生支援奨学金給付（学生の修学支援に資する事業）

#### ▼5万円を115人に給付（総額575万円）

アルバイト収入により生計を維持している学生を対象に、新型コロナウイルス感染症急拡大（第6波）により新型コロナウイルス感染症の陽性者又は濃厚接触者となり、保健所等の指示に基づく療養期間の間、アルバイトに従事することができず困窮状態にある学生に対する緊急支援のため、返済を要しない緊急学生支援奨学金を給付しました。

#### ▼緊急学生支援奨学金給付を受けた学生の声

##### 社会情報学部 3年生

私のアルバイト先は飲食店で、新型コロナウイルスの影響による緊急事態宣言やまん延防止等重点措置により、アルバイトができなくなる時期がありました。アルバイトができなかった時期は仕送りに頼るしかなく、なるべく無駄遣いをしないよう計算し節約しながら過ごしていました。その時に、群馬大学緊急学生支援奨学金を申請しました。お金を頂くことはありがたいことであると同時に、お金の使い方や大切さについても学ぶことができました。生活をするうえでお金は大切です。お金がないという理由で大学生活を送れないという事態を防ぎ、救ってくださったことに感謝しかありません。

##### 社会情報学部 3年生

私は飲食店のアルバイトと奨学金、両親からの仕送りで生計を立てています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響によりアルバイトの出勤日数が減少し、収入が大きく減ってしまいました。また、感染症が流行する前から両親の余裕がある月に仕送りを送ってもらっていたため、しばらくの間は仕送りができないとの連絡を受けました。さらに、身近で新型コロナウイルス感染症に感染した方がいたため、私は濃厚接触者として2週間ほど行動が制限されていました。このような状況の中で、最初は食費や日用品等を節約しながら生活を送っていましたが、次第に就職活動での移動費として準備していたお金で生活費を賄うようになり、金銭的にも精神的にも苦しくなっていました。

そんな時、緊急学生支援奨学金の案内があり、申し込みを決意しました。給付金をいただいた現在は不自由なく大学生活を送ることができ、とても助かっています。寄付者の皆様に心より感謝申し上げます。

##### 情報学部 1年生

この度は緊急学生支援奨学金を支給していただきありがとうございました。私は両親からの仕送りはなく、アルバイトの収入のみで生活しております。濃厚接触者の疑いがあり、アルバイトを控えなければならない状況になってしまい生活を送ることが困難になってしまったと思っていた際、今回の給付金のお話を伺い、支給していただきました。コロナウイルスに感染しているかもしれないという不安に加えて、生活費のことも考えていたので給付金のお話を聞いた際にはとても安心しました。この給付金がなければ今後アルバイトを行う頻度が多くなり、学習面で悪い影響が出ていた可能性があります。現在学習を行うことの出来る環境を作ってください誠に感謝しております。これからも勉学に励んでまいります。

## 医学部 3年生

今回の緊急学生支援奨学金を受給し、日々の生計を立てる上で非常に役に立ちました。私自身コロナウイルスに感染し、長期間アルバイトを行うことができなくなっていました。そんな中今回の奨学金を活用させて頂くことで、今までと変わらず生活を送ることができました。そのため奨学金はとてありがたい存在でした。

## 理工学部 3年生

私は理工学部にも所属していて、奨学金は借りていないのですが、親に学費、入学費などを払ってもらい、将来返済をするという形で今通学をしています。こちらの方が契約や利子などがつかないのでもういいだろうと。しかし、この新型コロナウイルス蔓延の影響で満足にバイトをしてコツコツとお金を貯めることも出来ず、ついには自身が濃厚接触者になってしまい、しばらくバイトを行うことが不可能になってしまう期間すらありました。この3年生の後期の時期、お金は貯まってきたのですが、院への進学なども考えると、とてもではないですが余裕があるとは言えませんでした。しかし、この群馬大学緊急学生支援奨学金を頂けたことで、本来働けたバイトの額分と、最近増額されてしまったTOEICの試験費用へと回すことができました。

この度の給付をしていただけたことにより、自分のようにとても助かった学生がいます。このような支援を承れたことを心から感謝申し上げます。寄付者の皆様、支援してくださり、本当にありがとうございました。

## 学生の食に対する支援（大学運営全般に係る事業）

### ▼5千円を264人に給付（総額132万円）

経済的困窮学生に対し、群馬大学生協食堂で使用できる金券5,000円分を支給しました。

### ▼学生の食に対する支援を受けた学生の声

- ◆このような支援をいただけること、大変ありがたく思います。美味しい学食を利用できることを楽しみにしています。
- ◆ご支援に感謝します。毎日の食はシビアな問題なので、とても助かります。
- ◆経済的な理由により、大学の学食を利用したことがなかったので、この支援はとてありがたいと思います。
- ◆とても嬉しい気持ちになります。群馬大学の学食は、とっても美味しいので、いつも節約してラーメンしか頼まないけど、いっぱい頼みたいものを頼もうと思います。
- ◆非常にありがたいです。食費にかけようとしていた分を他の諸経費に充てられるので助かります。
- ◆実家を離れ、一人暮らしをしており、生活費の中で食費に最も多くのお金を使うため、この支援は非常にありがたいです。大切にに使わせて頂きます。ありがとうございます。
- ◆学食をよく利用しています。普段から利用している学食で、支援を受けることができ嬉しいです。
- ◆コロナ禍の影響でアルバイトもできず、困窮していたのでとても有難いです。ありがとうございます。
- ◆これから国家試験の勉強で大学の施設を使うことも増えてくるため、自宅での食事が減ることによる金銭面のちょっとした不安が非常に和らぎました。ぜひ学生食堂を利用したいと思います。
- ◆経済的に厳しい状況であるため、このような支援を受けることができ、とてありがたいです。対面授業も増えてきているため、大学で学食を利用する機会も多くなり、食費もかかるため、今回の支援でこれからも学食を活用していきたいです。
- ◆対面授業がある際には学食で食事を取っており、また勉強に集中するためには食事は欠かせないためこのような支援は嬉しいです。
- ◆非常に助かる支援で嬉しいです。このような支援をしていただける大学に在籍できてよかったと思います。
- ◆この様に支援して下さる方々に感謝し、今後も大学生生活に励んで参りたいと思います。美味しい学食を食べ、精一杯頑張り、支援に応えられる様、成長したいと思います。
- ◆コロナ禍お互い大変な状況の中にもかかわらず支援をしていただけて本当に感謝しています。
- ◆2年生になって登校できるようになり、学食を使う機会が出来て嬉しかったので、こういった支援をして頂けるのはありがたいです。
- ◆現在1人暮らしを行っているのですが、コロナウイルスの影響で実家に帰省する機会が少なくなり、栄養バランスの悪い食事が多くなっていました。栄養面と金銭面からこのような支援を行って下さり、大変感謝しております。

## 国費外国人留学生の受け入れをサポート（大学運営全般に係る事業）

### ▼国費外国人留学生の入学待機期間中の滞在諸費用補助として、7人に総額37万円を支給

外国人留学生は入国の際、新型コロナウイルス感染症の水際対策として所定の日数、宿泊施設等で待機する必要があります。国費外国人留学生の入学待機中の滞在諸費用を補助しました。

※国費外国人留学生：外国人が日本政府からの奨学金を得て日本に留学するものです。

### ▼滞在費補助を受けた留学生の声

#### 国費留学生

カーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学（ハンガリー）

バナティ ヤンカ ボルバラ

ハンガリーのカーロリ・ガーシュパール・カルビン派大学からの留学生、バナティ・ボルバラです。12歳の頃、合気道を始め、そのきっかけで日本語を勉強し始めて、日本の文化に興味を持つようになりました。

今、群馬大学で留学生として日本語を勉強しています。いつか翻訳者になりたいと思っています。日本に留学したのは、日本語を勉強するためだけでなく、色々な人と知り合って、幅を広げるためでもあります。オンライン授業がほとんどですが、日本人学生の友達も作れましたし、他の留学生たちとも仲良くなり、様々な異文化と触れるきっかけとなりました。

日本に来て、半年がたち、今では前橋を住みやすいと感じています。もちろん、大学の国際センターや色々な人が手続きなどでサポートしてくれていますので、一人で日本に生活するのはと大分違っていますが、毎日の生活にこれほど心配がないのは、私にとっては大変ありがたいことです。

日常生活で日本語を使うことはとても新鮮です。自分にとって見覚えがない物やシステムや、習慣も多く、初めは驚きましたが、同時にワクワクする毎日を過ごしています。日本の人々の接し方や、お互いに対する気遣いも私が育った環境とは異なり、困った時に、これほど簡単に助けを貰ったことはなく、感謝でいっぱいです。さらに、日本人はお互いだけでなく、物もとても大事に使い、中古品マーケットの大きさにも驚きました。環境問題の解決にも真剣に貢献しています。

ハンガリーに帰国する日が来たら、きっととても寂しくなると思います。たくさんの良い思い出や、先生や親友など、自分の将来のためにも大事な経験を得ていると思っています。

## 学生の修学支援に資する事業

### 経済的困窮学生に対するサポート

#### ▶奨学金として20万円を大学院生12人に給付（総額240万円）

経済的困窮度が極めて高く、意欲と能力のある大学院生12人に、返済を要しない奨学金として、一人20万円を給付いたしました。ご寄附をいただいた皆様に感謝し、地域に貢献できる学生を育ててまいります。

### 学生の海外派遣をサポート

群馬大学では、グローバル社会において活躍できる人材を育成する目的で、留学意欲のある学生に対し、群馬大学基金等を活用した海外派遣のための奨学金制度を実施しています。

本学は、17カ国35大学等（2022年4月現在の大学間交流協定校）と協定を結び、交換留学生として半年又は1年、学生を派遣してきました。また、夏休みや春休みを利用して、本学および協定校が連携して企画する2～4週間程度の短期研修や大学間の交換留学プログラムに、多くの学生が参加してきました。

2021年度は、新型コロナウイルス感染症が世界的に流行し、実際に海外に行くのは難しい状況でした。しかし、オンラインを活用して、日本にいながらも海外の協定校の授業を聴講したり、

海外の大学生と協働プロジェクトを実施したり、実留学と同じような経験ができる、新しい私たちの国際協働教育をはじめました。

群馬大学基金からは、オンライン留学を行った学生30人中、8名の学生に、1人30,000円の奨学金を給付しました。新型コロナウイルス感染拡大でも、学生の国際交流活動の参加のモチベーションが下がらないよう、オンライン・実留学ともに群馬大学基金により支援を続ける予定です。

## ▶ オンライン研修に参加した学生の声

ウーロンゴン大学オンライン研修 (2022/2/21 ~ 3/4実施)

医学部医学科2年 荒川智成

この研修に参加を希望した理由は、まずは英語をしっかりと集中して勉強したいと思ったからです。このプログラムを通して、自分の専門分野に関係する語彙力やディスカッション力を向上させたいと思いました。

研修を通して、自分ができるようになったことが2つあります。1つは、自分の考えを整理して、それを英語で伝えることができるようになったことです。今までは、自分の意見を持っていても、英語の語彙力がなかったため、英語で伝えることができませんでした。今回の研修を通して、専門語彙を学び、それを使って英語で自分の考えを伝えることができ、とても自信になりました。英語を話すことについて、まずは語彙力をつけることが大事であると分かりました。2つめに自分ができるようになったことは、英語のプレゼンテーションの形を知り、実際にプレゼンテーションのPPTを英語で作成し、発表できるようになったことです。英語でプレゼンテーションをする際、いくつか守るべきルールがあることを知りました。

今後、この研修を通して学んだことや経験したことを、自分の日々の専門の勉強に活かしたいと思っています。日々の授業では、出てくる専門語彙について、英語で一緒に覚えるようにしました。また、英語で発表する時は、この研修で学んだ英語のプレゼンテーションの形を活かして、発表するようにしています。

ウーロンゴン大学の研修では、オーストラリアや多国籍の大学生と一緒にプロジェクトを行い、いろいろなバックグラウンドを持つ人たちと一緒に学ぶことができました。この研修を通して出会えたプロジェクトメンバーと引き続き、交流を続けていきたいと思っています。



# 大学運営全般に係る事業

## 学生のグローバルなチャレンジをサポート

● 群馬大学を代表するグローバルリーダーを全学で育成する目的で、2019年度から群馬大学基金を活用し、『「駆ける、世界を！」グローバルチャレンジプログラム』を実施しています。

グローバルチャレンジプログラムは、本学の学生個人あるいはグループが自分たちで企画したユニークかつ個性ある海外での活動に群馬大学基金から最大50万円を支給する海外奨学金プログラムです。

第3回目となった2021年度は、独自性のある、キラリと光る海外での活動を自由に企画した群馬大学生14組がグローバルチャレンジプログラムに応募し、第1次審査の書類審査を通過した6組が最終審査にのぞみました。最終審査では、群馬大学の役員による審査と群馬大学の学生・教職員のオープン審査を実施し、3組の企画が選ばれました。

2021年度にグローバルチャレンジプログラムに採択された3組の企画について、新型コロナウイルス感染症の流行のため、2022年度に実施が延期となりました。

ここでは、グローバルチャレンジプログラムに採択され、2022年度に実施を予定している留学企画2組を紹介します。(採択3組のうち1組は、2021年度中に本学卒業となり、採択辞退となりました)

## 「イギリスにおける小児がんの子どもをもつ家族への包括的ケア～医療機関と家族の関わりを知る視察～」

医学部保健学科学療法学専攻3年 江田千菜里

### 【留学先】

Great Ormond Street Hospital (国名：イギリス)

### 【留学先での活動】

小児がんの治療において、がんをもつ子どもだけでなく、親やきょうだい児などの家族に対するケアを視察し、日本の医療に取り入れるべき特長を知る。具体的には、子どもの手術や退院といった治療段階に合わせ、家族が治療に向き合うためにどのような精神的、医療技術的及び社会的支援が提供されているかに着目する。また、現地で働く医療従事者にインタビューを行い、家族を支援する際に重要視していることなど家族ケアに関する生の声を聞く。加えて、小児がん治療のリハビリテーションは、手術後のQOL(生活の質)向上や、退院後の社会復帰のために必要不可欠である。よって、具体的な治療内容に加え、退院に向けて入院時から家族がどのようにリハビリテーションに参加しているかも視察する。

### 【留学への意気込み】

留学の実現に向け、専門分野の勉強や語学学習、オンラインでの海外研修への参加など国内で実施可能な努力を継続して行っている。国内での下積みを活かし、現地での時間を有意義なものにする所存である。そして、学んだことを自身の糧とし、理学療法士として働く際に発揮するだけでなく、自専攻における海外研修やグローバルチャレンジプログラムの発展、および群馬県の小児理学療法分野の発展につなげられるよう尽力する。

### 【グローバルチャレンジプログラムの魅力】

グローバルチャレンジプログラムの最大の魅力は、留学先や現地での活動内容を自由に設定することができる点である。私の場合、自身の関心のある家族ケアや、専門分野であるリハビリテーションに着目したプログラムを作成することで、短期間でも内容の濃い研修となり、自専攻のカリキュラム遂行に支障が出ることを避けながら計画を立てることができた。



## 「軟水or硬水、それが原因?タイとベトナムにおける「水」の違いから糖尿病高罹患率の原因を探る!」

医学部医学科 森なつ実(学部2年)、高橋彩夏(学部3年)、矢澤理麻(学部3年)

### 【留学先】

キングモンクット工科大学トンプリ校、BNH病院、ベトナム国家大学ハノイ校、FPT大学、Vinmec International Hospital (国名：タイ、ベトナム)

### 【留学先での活動】

地理的、民族的、機構的に類似する東南アジアの域内で、「どうして糖尿病罹患率の差があるのか?」「どうしてインドネシアやベトナムでは糖尿病罹患率が高く、タイでは低いのか?」

この謎を探るため、私たちは、「糖尿病の発症リスクとマグネシウムの摂取量に相関性があるのではないか?」つまり、「マグネシウムを含有する『水』の違いから糖尿病罹患率の差が生じるのではないか?」と仮説を立てた。そして、マグネシウムの含有量が少ない「軟水」地域のベトナムと、マグネシウムの含有量が多い「硬水」地域のタイの2カ国を訪問し、住民の糖尿病に関する基礎データの取得と食生活を調査することにした。

留学先国のベトナムとタイでは、各関連の機関から協力を得て、それぞれ、「糖尿病と診断されたことがある(1群)」と「糖尿病と診断されたことがない(2群)」を対象に、健康調査や生活習慣調査を行い、統計解析ソフトを用いて、糖尿病罹患率の地域間格差の原因を探る。

### 【留学への意気込み】

私たちのグループは、グローバルチャレンジの応募にあたり、応募の半年前から準備を始めてきた。「糖尿病とマグネシウムの関連性」についての専門的知識を旭川医科大学の菊池健次郎先生から学び、また、東南アジアの住民の食生活や健康志向について、JICA青年海外協力隊(看護師)の小林聖子氏からレクチャーを受けた。留学先であるベトナムやタイで実施する留学計画も国内外の連携機関と協力して具体的にまとめており、留学それ自体を目的とせず、留学の準備や留学中の活動を留学後の成果につなげられるようにしている。

### 【グローバルチャレンジプログラムの魅力】

グローバルチャレンジプログラムの魅力は、「自分らしい留学」ができること。多くの医学部生は、学年暦のズレから海外留学をあきらめているが、医学部生でも、工夫をすれば、目的を高く持って、自分らしい留学ができることを強く発信したい。

### 留学テーマ

「軟水or硬水、それが原因?」  
タイとベトナムにおける「水」の違い  
から糖尿病高罹患率の原因を探る!



### 留学の目的

東南アジアにおける  
糖尿病罹患率の地域間格差の原因を探る

### 【仮説の検証】

糖尿病の発症リスクと水の硬度に相関性がある



### 私たちの想い

国際交流を通して世界中にポジティブなインパクトを与える  
グローバルチャレンジプログラムに参画し  
世界が求める医療×自分たちの専門による貢献

### 【これまでの実績】



# 重粒子線治療の普及・発展に資する事業

重粒子線治療の普及・発展に資する事業は、2021年度の実施はありませんでしたが、重粒子線治療のこれまでと今後の発展について、ご報告します。

## 重粒子線治療の保険適用、新たに5疾患が追加

群馬大学重粒子線医学研究センター 准教授 田代 睦

群馬大学の重粒子線治療は、先進医療として2010年に始まりました。患者数の推移を図に示します。これまでに、のべ患者数は5,400人、年間治療患者数は700人を超えています。特にこの2年間は、新型コロナウイルス感染症の蔓延状態にもかかわらず、患者数は過去最大となりました。照射回数が少なく、外来通院も可能といった重粒子線治療の強みが、コロナ禍においても発揮されているように思います。今後も感染予防に留意し、患者さんに最善の治療を提供していきます。

さて、先進医療は評価療養の1つです。当該医療技術の安全性や有効性は厚生労働省により定期的に評価され、公的な保険適用となるか、先進医療を継続するか、先進医療を取り下げるかのいずれかに振り分けられます。重粒子線治療については、2016年に骨軟部腫瘍が国内で初めて保険適用となり、2018年には前立腺がんと頭頸部がんも追加されました。その他の疾患については、重粒子線の国内統一治療方針に基づいて行われた治療の有効性を厚生労働省に報告した結果、2022年の診療報酬改定において、新たに5疾患（大型の肝細胞がん、肝内胆管がん、局所進行腺がん、手術後の大腸がん再発、子宮頸部腺がん）が保険適用として追加されました。

重粒子線治療の保険適用疾患はますます拡大し、この治療を必要とする患者数もさらに増加することが予想されます。そのような中で、重粒子線治療を安全・確実にやっていくことは、本学および当センターの重要な役割です。それと同時に、さらに良い治療にしていくために、重粒子線治療に関する生物・臨床研究や新規技術の研究開発を推進することも、重粒子線治療施設を持つ数少ない大学としての使命です。このような取り組みに対して、これまで群馬大学基金の一部を使わせて頂きました。今後の重粒子線治療の更なる普及や発展のために、皆様の益々のご支援をよろしくお願いいたします。



図：重粒子線治療患者数の年度別推移



# 群馬大学クラウドファンディングプロジェクト

## 「群馬大学 | 小児重症心不全患者を救いたい！」

## 超小型人工心臓の開発

大学院理工学府 准教授 栗田 伸幸

世界中の先進国が研究開発費に予算を割いている中で、日本の研究開発費は横ばい状態が続いています。国立大学の法人化以降、大学に対する運営費交付金は低下の一途をたどっており、研究開発費も削減される一方です。そこで、教員は科学研究費補助金に応募するのですが、科研費の採択率は20%～30%程度というのが現状です。

このような状況において、新しい研究資金の獲得方法として注目を集めているのが、学術・研究系クラウドファンディングです。クラウドファンディング（crowdfunding、以降CFと呼称する）とは群衆（crowd）と資金調達（funding）を組み合わせた造語で、インターネットなどを通して自らの活動や夢を発信することで、想いに共感した人や活動を応援したいと思ってくれる人から財源の提供や協力など募るしくみです。CFサイトのREADYFORは全国35の大学と包括連携協定を結び、研究者からCFのプロジェクト提案を受け付けており、群馬大学も、2021年にREADYFORと、36校目として業務提携を締結しました。そして、2021年10月18日に業務提携第一号プロジェクトとして、「群馬大学 | 小児重症心不全患者を救いたい！超小型人工心臓の開発」を公開いたしました（募集期間：2021年10月18日～2021年12月16日）。プロジェクトメンバーは、著者（栗田伸幸）の他、医学部・循環器外科教授阿部



図1：プロジェクトページのトップ画像



図2：メンバーで議論する様子

知伸先生、板橋英之副学長、浅尾高行副学長の4名です。著者は人工心臓の駆動方法のコアとなる磁気浮上モータの研究者です。阿部先生はアメリカでの人工心臓埋込手術の経験が豊富です。板橋先生には本プロジェクトのプロモータ的役割を担っていただきました。浅尾高行先生は先端医療開発センターのセンター長も兼任し、医療機器開発経験も豊富です。

全世界の死因の約30%、日本では年間20万人の方が心不全を含む循環器系の病気で死亡しています。薬物治療も効果をあげないほどの重症心不全患者の救命のためには心臓移植が最も有効です。しかしながら、実

際にドナーが見つかり心臓移植ができるまでには平均4年にも及ぶ長い待機時間が必要となります。この間、心臓を休ませるために必要となるのが人工心臓です。健康な方の場合、心臓は1分間に約60回拍動し、約5Lの血液を全身に送り出します。この能力が例えば半分になってしまう状態が心不全です。仮に血流量が半分に減少したとすると、心臓は心拍数を2倍にし、必要な血液を体に送ろうとします。つまり、安静にしているときでも心臓だけはマラソンをしているような状態になってしまうのです。この状態が続けば心臓にとっても負担がかかります。そこで、人工心臓によって血流量をポンプで半分を補うことで心臓を休ませ、移植までの時間を乗り切れるようにします。心臓を休ませることによって心臓の機能が回復することもあります。ただ、成人用の人工心臓は一般的な治療になりつつありますが、小児用人工心臓は小型であるため製作が難しく、また成人に比べ患者数が少ないこともあり、収益を出すことが難しく、企業が取り組みにくい課題となっています。そこで私たちは、重症心臓病を患った小児の救命のため、彼らのQOLをできる限り保つために小児の体内に埋め込むことができるほど小さな人工心臓を開発したいと考えました。科研費等でも研究資金を得ることができますが、その先の製品化を目指すには企業による開発が必要になります。しかし、小児人工心臓は収益を得ることが難しく、企業にとっては事業化が難しいのです。そのため、まずはクラウドファンディングで支援を集め事業を前に進めたいと考えました。当初の目標金額（第一目標）は700万円としました。用途は人工心臓試作機の製作費用や人工心臓駆動のための制御器製作費用です。

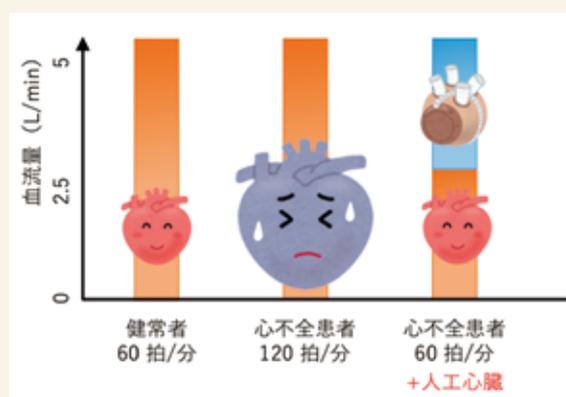


図3：人工心臓の使われ方



図4：第五目標と用途の図

10月18日に群馬県庁のNetsugenで記者会見を行い、プロジェクトをスタートしました。多くのメディアで取り上げられたこともあり、すぐに多くの方々からご支援をいただき、第一目標はわずか9日間で達成することができました。その後も、2021年11月10日、プロジェクトスタートからわずか24日で第四目標の1600万円を達成し、12月13日には、713名もの方からのご支援により、第五目標の3000万円を達成することができました。ご支援いただいた方の中には実際にお嬢様が人工心臓の補助を受けているという方や、お子様を心不全でなくされた方など、真に人工心臓を必要とされている方がたくさんいらっしゃいました。身の引き締まる思いです。CFは成功裏に終了しましたが、当然ですがここからが本当のスタートです。これからますますがんばりますので、引き続きの応援をよろしくお願い致します。

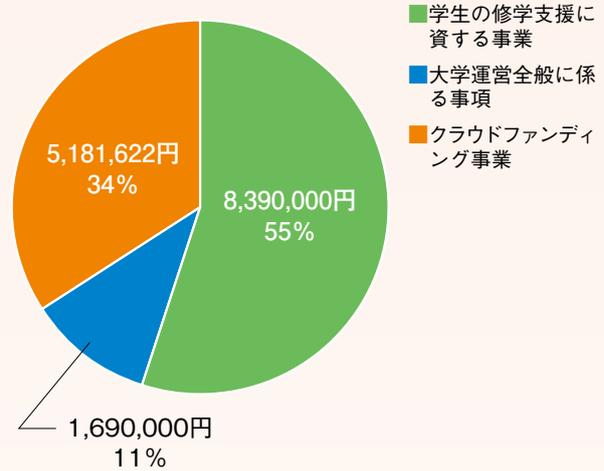
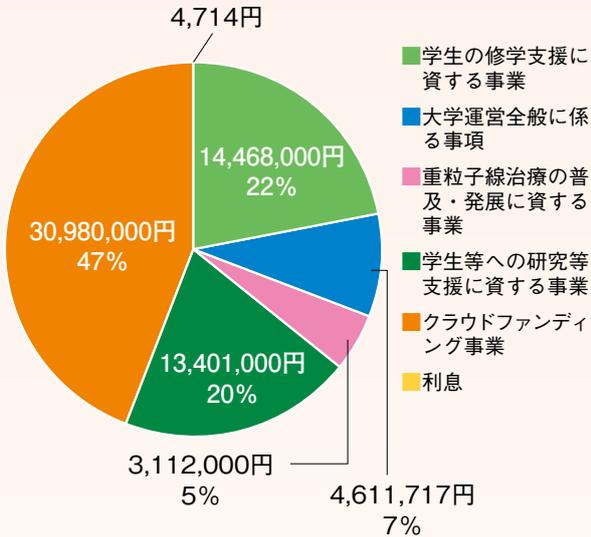
# 収支報告

2021年度は、総額約6,657万円のご寄附を頂戴しました。皆様からのご支援に、心より感謝申し上げます。2021年度の寄附額及び支出額をご報告いたします。

## 収支状況

収入 合計 66,577,431円

支出 合計 15,261,622円

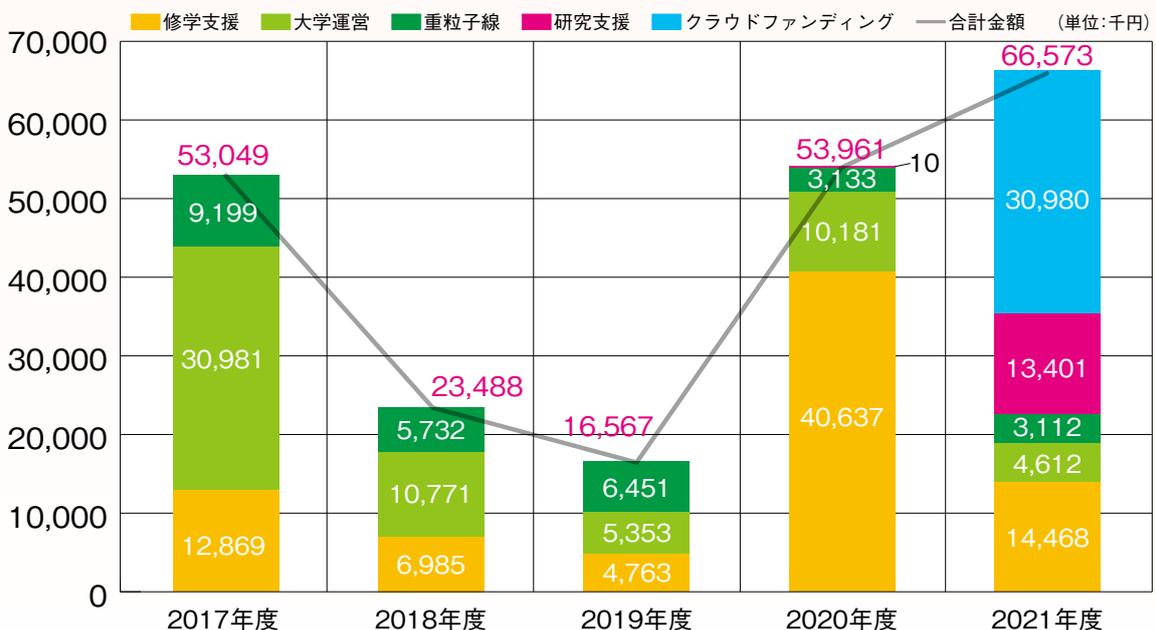


## 属性ごとの寄附金額

属性	件数	寄附金額 (円)
同窓生・同窓生の家族	298	22,121,000
在学生・在学生の家族	29	1,166,000
教職員・退職者	25	1,784,000
法人	47	9,077,717
その他	13	1,444,000
総計	412	35,592,717

※クラウドファンディングへの寄附を除く

## 年度別寄附額の推移



## 2021年度群馬大学基金収入支出決算書

### 1. 収入決算

(単位：円)

事 項	収入額
(1)学生の修学支援に資する事業	14,468,000
(2)大学運営全般に係る事項	4,611,717
(3)重粒子線治療の普及・発展に資する事業	3,112,000
(4)学生等への研究等支援に資する事業	13,401,000
(5)クラウドファンディング事業	30,980,000
(6)受取利息	4,714
合 計	66,577,431

### 2. 支出決算

(単位：円)

事項	内 訳	予算額	決算額
(1)学生の修学支援に資する事業		13,900,000	8,390,000
①緊急学生支援奨学金給付 「新型コロナウイルス感染症拡大による 困窮学生救済のための支援事業」	50,000円×115人	9,000,000	5,750,000
②奨学金の給付 「群馬大学基金における経済的困窮学生 に対する奨学金給付事業」	大学院生 12人(前期6人、後期6人)×200,000円	2,400,000	2,400,000
③学生の海外留学派遣 「留学(派遣)経費補助事業」	オンライン留学 30,000円×8人	2,500,000	240,000
(2)大学運営全般に係る事業		8,077,000	1,690,000
①グローバルチャレンジプログラム	※新型コロナウイルス感染症拡大のため延期 (学生の海外留学派遣 8件予定⇒実施 0件)	4,000,000	0
②学生の食に対する支援 「新型コロナウイルス感染症拡大による 困窮学生救済のための支援事業」	5,000円×264人 ※基金以外からも200人分給付	2,750,000	1,320,000
③国費外国人留学生受入事業 「新型コロナウイルス感染症拡大による 困窮学生救済のための支援事業」	留学生の滞在諸費用補助 PCR検査終了前 1日5,500円 PCR検査終了後 1日1,500円 合計7名	327,000	370,000
④基金事務費(印刷・通信費等)	※基金財源の安定化のため広報経費で支出	1,000,000	0
(3)重粒子線治療の普及・発展に資する事業		0	0
※2021年度の事業計画なし		0	0
(4)学生等への研究等支援に資する事業		0	0
※2021年度の事業計画なし		0	0
(5)クラウドファンディング事業		0	5,181,622
「小児重症心不全患者を救いたい！超小型 人工心臓の開発」	試作1号機の開発 ※クラウドファンディング業者手数料含む	0	5,181,622
合 計		21,977,000	15,261,622

### 3. 繰越額

(単位：円)

事 項	前期繰越額	翌期繰越額
(1)学生の修学支援に資する事業	43,783,176	49,861,176
(2)大学運営全般に係る事項(間接経費1,549,000円、利息4,714円を繰入)	47,588,623	52,064,054
(3)重粒子線治療の普及・発展に資する事業	323,383,997	326,495,997
(4)学生等への研究等支援に資する事業	10,000	13,411,000
(5)クラウドファンディング事業(間接経費振替分1,549,000円を除く)	0	24,249,378
合 計	414,765,796	466,081,605

## 2021年度寄附者のご芳名

ご寄附いただきました皆様に深い感謝の意を込めまして、ご芳名を掲載させていただきます。  
※2021年4月1日～2022年3月31日の期間にご寄附のお申込みをいただいた方で、お名前の掲載を許可いただいた方のみを掲載しております。  
※クラウドファンディングにご寄附いただいた方については、本学ホームページに掲載いたします。

### 個人寄附者ご芳名

(五十音順・敬称略)

相川 英三	磯 文夫	岡部 史幸	小暮 公孝	島野 俊一	滝澤 雅雄
相原 忠義	一瀬 正信	岡村 守之	小島 章	清水 和夫	滝沢 益男
藍原 康雄	伊藤 賢司	岡本 栄一	小島 堅史	清水 浩二	田口誠次郎
秋山仁一郎	伊藤 晃子	落合 博	小西 憲二	清水 増男	武知 勉
秋山 典夫	稲葉 朋子	笠原 浩一	小林 弘一	清水 元彦	竹渕 英子
朝倉 正博	井上 斉	梶原 護	小林 茂	下村 卓	竹渕禮治郎
渥美 直美	植竹 裕	片山 雅義	小林 敏男	白石 誠一	田島 義明
天笠 俊之	牛島 義雄	金子 英樹	小林 夏木	白石 壮志	田中 邦男
荒井智恵子	梅島 昌	日部 恒	齊藤 慎一	白倉 賢二	田中 浩二
新井 豊	浦岡 俊夫	河合 有希	齋藤 友博	菅又 偉雄	田中 丈子
飯島 久香	浦部 忠久	川浦 豊	齋藤 浩一	杉山 和子	谷 登美子
飯田 徳雄	大川 英夫	川島 三男	坂入雷太郎	鈴木 慶二	谷 雅弘
飯田 幸弘	大黒 正之	菊池 彰隆	佐上 俊和	鈴木 庄亮	種村 義信
碓谷 壽幸	大嶋 清宏	木島 洋征	坂本 昌之	鈴木 秀雄	田部井 薫
池田 春寿	大城 道子	金城 忠雄	坂本 穰	須田 淳美	田村 武
石井真由美	大塚健之介	窪田 健二	佐藤 明子	須藤 伸夫	田村 之男
石川 三衛	大槻 智宏	黒川 公平	佐藤 英子	須永幸三郎	津久井明三
石川 大二	大月弥之助	桑島 伝一	佐藤かおり	住山 民雄	土屋 徳昭
石川 晴男	大野 昌志	桑原 英眞	塩田 茂男	瀬下 敏男	土谷 征弘
石黒 早苗	大和田 彰	小池 幸子	塩田 利彦	添田 勉	角田 和好
石崎 泰樹	岡崎 久恒	小井田時廣	篠原 茂雄	高橋 治	手塚 誠
石島 正勝	尾形 敏郎	香西 博明	柴崎 史子	高橋 宗彦	寺尾 昭宏
石原 詔二	岡野 弘文	古賀 康彦	島貫 崇	高島 一雄	寺尾 直子

徳江 雅士	中野由美子	半田 文穂	堀米弥太郎	宮本 尚士	山本 進
常世 克巳	中村 圭子	樋口 一明	曲澤 聡	村本 卓郎	横田 賢治
登坂 璋典	中屋 光雄	日永 正彦	間島 竹彦	森 昌朋	横村 淳
土橋 邦生	中山 康夫	平澤 英昭	松井 聡幸	森下 克司	横山 崇雄
友安 浩	中山由紀恵	平塚 浩士	松尾 仁	森田 栄一	吉田 豊
永井 俊也	西川 祥子	平山 貴司	松崎 茂	茂呂 貞美	渡辺 裕行
中里 洋一	萩原 信一	廣田 泰士	丸山 和子	師星 宣彦	渡辺美代子
中島 孝	橋田 巖	深堀 能立	三浦 雄二	八木原 熙	
中島 忠雄	橋爪 久	布河谷源治	水間 春夫	矢島 正	匿名希望の 寄附者様 134名様
中島 泰彦	馬場 浩介	福田 泰基	南嶋 洋司	柳沢 琳江	
長瀬 慈村	浜田 利之	星野 仁	宮久保純子	柳沢 靖浩	
中田 逸夫	林 正己	堀口 雅子	宮田 敬一	山内 康彦	
中野 眼一	原 大作	堀越 徹	宮村 賢一	山田 幸保	

## 法人・団体寄附者ご芳名

(五十音順・敬称略)

株式会社アイ・ディー・エー	株式会社総合PR
足利ガス株式会社	株式会社チノー
池下工業株式会社	同愛会
医療法人社団醫光会	東京パーツ工業株式会社
植木プラスチック株式会社	株式会社登利平
鶴川興業株式会社	中林臨床医学研究所
有限会社柏屋	株式会社日本キャンパック
教職員共済生活協同組合	株式会社野村建設工業
株式会社協正金型製作所	株式会社原田
株式会社キンケン	星野総合商事株式会社
グリーンマネジメント株式会社	前橋プライマリ泌尿器科内科
株式会社群電	丸三飲料株式会社
群馬大学工業会茨城県連合支部	MICシステム
群馬大学工業会横浜支部一同	株式会社矢野
群馬大学情報学部同窓会	株式会社ユタカ製作所
群馬トヨペット株式会社	株式会社ヨーユーラボ
国際エコヘルス研究会	株式会社ヨシカワ
株式会社サンコー・インダストリアル・オートメーション	医療法人吉野医院
紫水クラブ（保健学科同窓会）	匿名希望の法人・団体様 6法人・団体様
上武印刷株式会社	

お問合せ先

国立大学法人群馬大学 総務部総務課基金係  
〒371-8510 群馬県前橋市荒牧町四丁目2番地  
T E L 027-220-7018  
F A X 027-220-7012  
Email [kikin@jimu.gunma-u.ac.jp](mailto:kikin@jimu.gunma-u.ac.jp)  
URL <https://kikin.gunma-u.ac.jp/>



群馬大学  
GUNMA UNIVERSITY

